

日本博の開催準備等に関する関係府省連絡会議

(第2回)

議 事 次 第

日時：令和元年10月17日(木)
14時30分～15時00分
場所：官邸2階小ホール

1 開 会

2 議 事

- (1) 日本博について
- (2) 意見交換

3 閉 会

《配布資料》

- 資料1 日本博の開催準備等に関する関係府省連絡会議の開催について
- 資料2 日本博の開催準備等に関する関係府省連絡会議運営要領
- 資料3 日本博について

日本博の開催準備等に関する関係府省連絡会議の開催について

（平成 31 年 2 月 18 日）
（内閣総理大臣決裁）

- 1 2020 年東京オリンピック・パラリンピック競技大会の機運醸成や訪日外国人観光客の拡大等も見据えつつ、日本の美を体現する我が国の文化芸術の振興及びその多様かつ普遍的な魅力を発信する日本博の具体化及び開催準備等に関し、関係府省の緊密な連携を図りながら政府全体の総合調整を行うため、日本博の開催準備等に関する関係府省連絡会議（以下「連絡会議」という。）を開催する。
- 2 連絡会議の構成は、次のとおりとする。ただし、議長は、必要があると認めるとときは、関係者の出席を求めることができる。

議長 内閣官房副長官（参）
議長代理 内閣官房副長官補（内政担当）
議長補佐 文化庁長官
内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局長
構成員 内閣官房内閣審議官（内閣官房副長官補付）
内閣官房アイヌ総合政策室次長
内閣官房まち・ひと・しごと創生本部事務局次長
内閣官房東京オリンピック競技大会・東京パラリンピック競技大会推進本部事務局総括調整統括官
内閣府知的財産戦略推進事務局次長
官内庁長官官房審議官
警察庁長官官房審議官（国際担当）
総務省大臣官房総括審議官（情報通信担当）
外務省大臣官房国際文化交流審議官
国税庁長官官房審議官
文部科学省大臣官房総括審議官
文化庁次長
厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部長
農林水産省食料産業局長
経済産業省大臣官房商務・サービス審議官
観光庁次長
環境省自然環境局長

- 3 連絡会議の庶務は、文化庁の協力を得て、内閣官房において処理する。
- 4 前各項に定めるもののほか、連絡会議の運営に関する事項その他必要な事項は、議長が定める。

平成31年2月26日

日本博の開催準備等に関する関係府省連絡会議運営要領

日本博の開催準備等に関する関係府省連絡会議（以下「連絡会議」という。）の運営については、この運営要領の定めるところによるものとする。

1. 連絡会議は非公開とし、会議終了後、議事要旨及び連絡会議で配布された資料を速やかに公表する。ただし、議長が特に必要と認めるとときは、議事要旨又は配布資料の全部又は一部を公表しないものとすることができる。
2. 連絡会議終了後、原則として、連絡会議の事務局が記者ブリーフを行い、議事内容を説明するものとする。

「日本博」について

令和元年 10 月



1. 経緯

- 「『日本の美』総合プロジェクト懇談会」(主催:安倍総理、座長:津川雅彦氏[~2018年8月]・小林忠氏[2019年4月~])において、日本人の美意識・価値観を国内外にアピールし、その発展及び国際親善と世界の平和に寄与するための施策の検討等を実施。
- 2020年の「日本博」については、東京オリンピック・パラリンピック競技大会を契機として日本全国各地で実施することとされ、第6回の同懇談会(2018年6月22日開催)において、総理から文部科学省・文化庁に対して準備を進めるよう指示。第1回の「日本博総合推進会議」を2018年12月26日に開催。また、第1回の「日本博の開催等準備に関する関係府省連絡会議」を2019年2月26日に開催。

2. 関連スケジュール

2015年:「『日本の美』総合プロジェクト懇談会」発足

2016年:「日本仏像展」(於:イタリア)を開催

2018年:「ジャポニスム2018」(於:フランス)を開催

2019年:「Japan 2019」(於:米国),「響きあうアジア2019」(於:東南アジア)を開催

2020年:「日本博」(於:日本)を開催(※ 同年、東京オリンピック・パラリンピック競技大会開催)

1 総合テーマ：「日本人と自然」

2 基本コンセプト

「日本の美」は、縄文時代から現代まで1万年以上もの間、大自然の多様性を尊重し、生きとし生けるもの全てに命が宿ると考え、それらを畏敬する「心」を表現してきた。

日本は、景観や風土を大切にし、縄文土器をはじめ、仏像などの彫刻、浮世絵や屏風などの絵画、漆器などの工芸、着物などの染織、能や歌舞伎などの伝統芸能、文芸、現代の漫画・アニメなど様々な分野、衣食住をはじめとする暮らし、生活様式等において、人間が自然にたいして共鳴、共感する「心」を具現化し、その「美意識」を大切にしている。

「日本博」では、総合テーマ「日本人と自然」の下に、「美術・文化財」「舞台芸術」「メディア芸術」「生活文化・文芸・音楽」「食文化・自然」「デザイン・ファッション」「共生社会・多文化共生」「被災地復興」などの各分野にわたり、縄文時代から現代まで続く「日本の美」を国内外へ発信し、次世代に伝えることで更なる未来を創生する。

この文化芸術の祭典が、人々の交流を促して感動を呼び起こし、世界の多様性の尊重、普遍性の共有、平和の祈りへつながることを希求する。

3 開催時期等

2020年を中心としつつ、その前後の期間も含めて幅広く展開

4 実施にあたってのポイント

2020年、東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催を契機に、「日本の美」を体現する美術展・舞台芸術公演・文化芸術祭等を全国で展開。

「縄文から現代」及び「日本人と自然」というコンセプトの下、日本が誇る様々な文化を、四季折々・年間を通じて体系的に展開。

文化庁を中心に、関係府省庁や文化施設、地方自治体、民間団体等の関係者の総力を結集した大型国家プロジェクト



- オリパラ前、期間中、オリパラ後のインバウンド拡充
- 訪日外国人の「地方への誘客」の促進
- 国家ブランディングの確立
- 文化芸術立国としての基盤強化

現状・課題

- ◎個々の分野、施設ごとに、インバウンド、情報発信などを対応しており、一元的・継続的な情報発信が十分ではない。
- ◎好事例として蓄積されたノウハウが全国に展開されていない。

方針

- 戦略的プロモーション、一元的・継続的な情報発信、訪日外国人向けコンテンツの開発、文化体験ツアー造成など
- 新しい手法・演出・技術を積極的に導入した取組を推進し、蓄積されたノウハウを全国に横展開

国民自身が、自国文化の魅力や素晴らしさを発見・再認識する機会の拡充

◎日本博の具体的な企画・実施を通じた魅力の再発見・
人材育成へ

- 日本の歴史、芸術、食、自然環境等の魅力の再発見、価値づけを行い国内外へ発信

◎子供・若者・障がい者・高齢者が参加できる文化
プログラム・体験機会の拡充

- 新たな技術・演出・手法も活用した伝統文化から現代芸術までの体験機会の拡充
- 国民参加型のプロジェクト実施 等

文化による「国家ブランディング」を強化

戦略的取組に
よる好循環を形成

「文化芸術立国」としての
基盤を強化

官民連携の下、オールジャパンで国内外への戦略的プロモーションを推進

◎質の高い文化資源による戦略的プロモーションのための
仕組みの構築

- 全ての分野を一元的に扱った情報、VR・AR、高精細画像・映像の先端技術を活用したコンテンツ制作・多言語化等による海外プロモーション・パッケージを提供
- 観光庁、JNTO等との連携

◎官民連携による異業種連携プロモーション促進

- 文化との連携による商品開発や、企業の先端技術開発・アピール 等

文化による「観光インバウンド」拡充、
訪日外国人の「地方への誘客」の
促進

世界中が注目し、来日外国人増が見込まれる好機を活かした積極的な受け入れ環境の整備

◎多様な広報媒体による「旅前・旅中・旅後」情報発信等によるインバウンド促進

- 官民連携(自治体、旅行・ホテル・飲食等関係団体、交通関係団体との官民連携体制による来訪者ニーズ把握、誘客のための多言語による情報発信やニーズに応じた相談・案内等の取組促進
- 実施期間中の社会的・経済的効果を個別に測定・分析・マーケティング等で活用 等

◎複数の文化拠点による企画連携を取り込んだ周遊ルートモデルの開発

- 外国人向けのインタラクティブな体験型コンテンツ開発、劇場ツアー開発

日本博総合推進会議

議長：内閣総理大臣 議長代理：内閣官房長官

議長補佐：内閣官房副長官（参）

構成員：オリパラ大臣、クールジャパン担当大臣、外務大臣、文科大臣、国交大臣、
小林達雄氏、小松大秀氏、島谷弘幸氏、高階秀爾氏

日本博の開催準備等に関する関係府省連絡会議

各省庁間の連携・調整

議長：内閣官房副長官（参）、議長代理：内閣官房副長官補（内政）

議長補佐（全体総括担当）：文化庁長官、議長補佐（オリパラとの連携担当）：オリパラ事務局長

文化庁 全体統括



文化庁「日本博」企画委員会

有識者、地方自治体代表、産業界代表、日本博事務局事務総長

適宜助言等

企画の立案・実施への助言

国立文化施設

(独) 国立文化財機構

(独) 国立美術館

(独) 国立科学博物館

国立アイヌ民族博物館

国立近現代建築資料館

(独) 日本芸術文化振興会
日本博事務局
企画の立案・実施
事務総長：理事長

「縄文から現代」及び「日本人と自然」というコンセプトの下、日本が誇る様々な文化を、2020年を中心としつつ、その前後の期間も含めて幅広く展開する。



主催・共催型

「総合大型プロジェクト」

「日本博」の中核となる
総合大型プロジェクト
(国、文化施設、民間
団体、事務局等が共同
で企画・実施)

(イメージ)

- ・縄文から近現代の美術
- ・伝統芸能・現代舞台芸術
- ・メディア芸術
- ・生活文化・文芸・音楽
等の複合領域を一つの空間で
演出するプロジェクト

「分野別大規模プロジェクト」

「日本博」のテーマ
及びコンセプトを加味
した大規模な展示・公
演等のプロジェクト
(全国的な活動を行う
団体等が主催)

(イメージ)

- ・地方自治体や文化関係団体等で
一定期間実施するプロジェクト

※国は原則一部負担。ただし、
被災地との共催、共生社会・多
文化共生、最先端技術の導入等
に係るものは例外とすることを
想定。

公募助成型

「イノベーション型プロジェクト」

各地域や団体の
特色ある企画を
公募し事業費を
一部助成

(イメージ)

- ①地域の特色を生かして
新たに企画・実施する
プロジェクト
- ②文化関係団体が実施
する新規性・創造性が
高いプロジェクト

※国は原則一部負担。ただし、
被災地との共催、共生
社会・多文化共生、最先端
技術の導入等に係るものは
例外とすることを想定。

参画型

各地域や団体の
特色ある企画を
公募し企画内容
を認定

(イメージ)

- ①テーマ、コンセプト
に沿う日本を代表する
プロジェクト
- ②「日本博」として国
内外に発信するものと
して相応しいプロジェ
クト

等

- ・本年4月以降、「日本博」プロジェクトの公募等を行い、審査・評価の結果、
主催・共催型1次・2次・3次分、公募助成型1次・2次分 **全体で計133件を採択**
- ・参画プロジェクト **計165件を認証(9月30日現在)**

◆主催・共催型 :69件 (118件提案)

※一次受付:19件採択(23件提案)、二次受付:31件採択(46件提案)、三次受付:19件採択(49件提案)

◆公募助成型 :64件(161件申請)

※一次募集:37件採択(113件申請)、二次募集:27件採択(48件申請)

◆参画プロジェクト :165件 (9月30日現在)

◆プロモーション

- ・観光庁、JNTOとの連携による海外発信
- ・ラインナップリーフレットの作成・配布、HP（英語発信）等を実施
- ・今後、本格的なHP等の運用開始、国内外メディア・在京大使館の招へいなど本格的なプロモーションを開始
- ・関係府省との連携を具体的に企画・実施
(国立公園、日本酒、ファッショニ、共生社会、外交団招へい等)

◆オープニングセレモニー・記念公演 3月14日

・縄文から現代までの代表

国内各地の縄文文化から国宝、浮世絵(北斎など)、日本の衣食住、ユネスコ無形文化遺産、国立公園、マンガ・アニメ、ファッションなどにおいて、日本人が自然とどのように向き合い、文化芸術活動を通じて表現し、守り伝えようとしているか等をテーマに、訪日外国人の方々をはじめ多くの方々に楽しんで頂くことを意識したプログラムです。また、里帰り企画の実施なども検討しています。

・地域発の国際芸術祭など

瀬戸内国際芸術祭など、地方公共団体と芸術団体などが連携して行う地域の国際的な芸術祭が多数企画され、訪日外国人の滞在型誘客を目指しています。

・美術展・舞台芸術に関連した新たな訪日外国人向け体験型プログラム創成

Discoverシリーズ(能狂言、文楽、歌舞伎、組踊)での舞台体験や、美術品・文化財の対話型鑑賞など新たなプログラムを創成します。

・アイヌ(民族共生象徴空間:ウポポイ)2020年4月開始、沖縄の伝統芸能である組踊300周年を機に、国内各地各地で関連プロジェクトを実施、海外への発信

・全国巡回

日本遺産などの地で伝統芸能、伝統工芸、食文化などの体験型プログラムを企画しています。

以上のような取組を通じて、ジャンルを超えた新たなパートナーシップ構築やプログラム創成のノウハウを蓄積し、今後のレガシーとして次世代へ繋いでいきます。

「綴りプロジェクト」-高精細複製画で綴る- スミソニアン協会フリーア美術館の北斎展

すみだ北斎美術館／令和元年6月25日（火）～8月25日（日）

米フリーア美術館の門外不出のコレクションを、「綴りプロジェクト」によって、北斎の肉筆画から日本の自然を描いた「波濤図」などの13点の高精細複製画を製作し、すみだ北斎美術館の所蔵品130点と共に多言語で紹介。高精細複製画の屏風の前で外国人を対象にした江戸生活文化体験ワークショップも実施しました。

企画展来館者 29,134名
うち外国人来館者数 約6,000名
ワークショップ等関連企画参加者 871名



※「綴りプロジェクト」…京都文化協会とキヤノンが推進する文化財の
高精細複製品を制作・活用するプロジェクト

美を紡ぐ 日本美術の名品 －雪舟、永徳から光琳、北斎まで－

東京国立博物館／令和元年5月3日（金・祝）～6月2日（日）

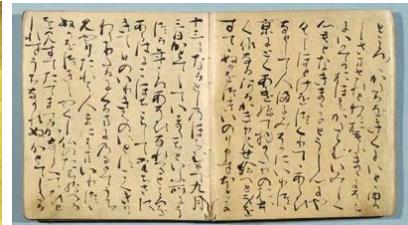
文化庁、東京国立博物館、宮内庁三の丸尚蔵館が所蔵する、狩野永徳、雪舟、尾形光琳、葛飾北斎らの「自然」にまつわる名品が中心に並びました。



国宝 狩野永徳「檜図屏風」四曲一双（東京国立博物館蔵）



狩野永徳「唐獅子図屏風」六曲一双右双（宮内庁三の丸尚蔵館蔵）



藤原定家筆「更級日記」一帖（宮内庁三の丸尚蔵館蔵）



「石山寺蒔絵文台・硯箱」一具（宮内庁三の丸尚蔵館蔵）

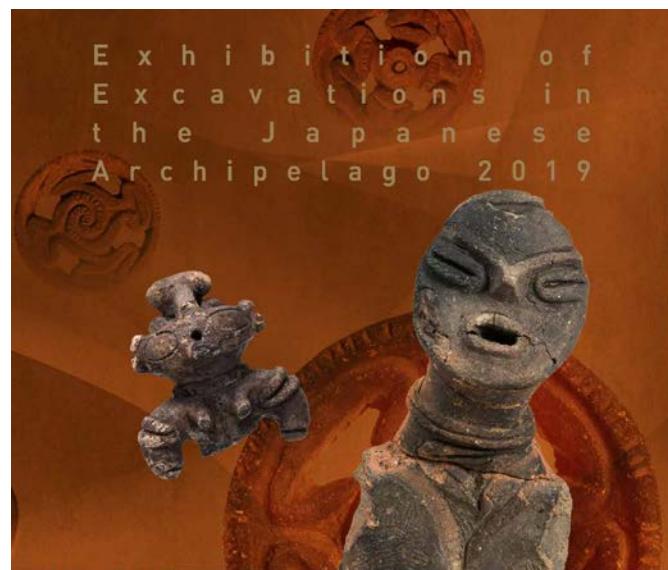
重要文化財 「芦穂蒔絵鞍鑑」一具（東京国立博物館蔵）

総入館者数
106,593名
うち外国人来館者数
3,593名
総入館者に占める割合
3.4%

発見された日本列島 2019

文化庁/東京都、岩手県、青森県、愛知県、福岡県
令和元年6月1日（土）～令和2年2月26日（水）

埋蔵文化財の発掘調査によって、旧石器時代以来、人は日本列島の多様な気候風土に適応して、多彩な生活文化を紡ぎあげてきたことが分かっています。その中には、自然への畏敬を表した「造形美」、生活に直結した「機能美」など、豊かな美意識を見て取ることができ、日本列島の多様な自然に適応した生活文化の隅々に美意識が刻まれています。國民に日本の文化と歴史により深く、身近に親しんでもらいます。

発掘された
日本列島
新発見考古速報
2019

特集1 福島の復旧・復興と埋蔵文化財

特集2 記念物100年



● 東京都江戸東京博物館
令和元年6月1日（土）～令和2年7月21日（日）
主催：文化庁、東京都江戸東京博物館、東京国際、企画販賣会、全日本模型車両製造協会

● 花巻市博物館（岩手県）
令和元年8月2日（金）～令和元年9月10日（火）
主催：文化庁、岩手県博物館、岩手県美術館、全日本模型車両製造協会

● 三内丸山遺跡センター（青森県）
令和元年9月21日（土）～令和元年11月4日（月・休）
主催：文化庁、内丸山遺跡センター、東日本新聞、全日本模型車両製造協会

● 名古屋市博物館（愛知県）
令和元年11月16日（土）～令和元年12月28日（土）
主催：文化庁、名古屋市博物館、岐阜新聞社、企画販賣会

● 市民ユージア・大野城心のふるさと館（福岡県）
令和2年1月18日（土）～令和2年2月26日（水）
主催：文化庁、大野城心のふるさと館、若狭市役所、企画販賣会

群馬県立歴史博物館100回企画展
-ハート形土偶大集合 !!縄文のかたち・美、そして岡本太郎-

群馬県立歴史博物館

令和元年9月28日（土）～12月1日（日）

群馬県地域の縄文文化を代表し、秀逸な造形美を誇るハート形土偶（群馬県吾妻郡東吾妻町郷原遺跡出土）。この土偶を軸にハート形土偶の移り変わりを概観とともに、それ以前や以降の代表的な土偶も紹介します。また、土偶以外の縄文時代の祭りに関する道具も展示し狩猟採集民である縄文人の祈りについて考えていきます。さらには、縄文土器の造形美から縄文の美を再発見した岡本太郎の作品を通じて、私たち現代人にも受け継がれている縄文人の感性を呼び覚ますものとします。

信濃川火縄街道連携協議会/新潟県
-火縄型土器と縄文文化の魅力発信事業-

令和元年6月21日（金）～令和2年3月31日（火）

縄文関連の博物館や自然豊かな地域の祭り等をめぐるバスツアー、ミニ土器づくりや火縄土器に触れることができるイベント、縄文時代から変わらない川の恵みに感謝する鮭の稚魚放流、新潟県立歴史博物館と小学校が縄文文化をテーマに連携して交流学習を行う博学連携プロジェクトなど、自然と共生した縄文文化を体感できるイベント等を開催します。また、協議会に加盟する各市町や新潟県立歴史博物館において縄文に関する展示を開催するとともに、日本遺産である信濃川流域の火縄型土器をwebや各種メディアをとおして国内外に発信します。



縄文文化を体験できる様々な企画を開催



浜離宮大江戸文化芸術祭2019

浜離宮恩賜庭園／令和元年8月23日～8月25日

東京都内でも有数の美しい景観、価値、歴史性をもつ浜離宮恩賜庭園は、生きた歴史文化芸術遺産の象徴であり、ここ数年は国内外から多くの来場者が集まっています。

この文化的価値の高い浜離宮恩賜庭園を舞台に、著名デザイナーの総合プロデュースの元、ゆかたをキーコンテンツとした日本の伝統的ファッショニや日本文化を語る上で欠かせない剣道や華道、茶道などの『道』に触れることができる文化の祭典を開催しました。

入場者数：3日間 14,500人

みんなの花火
～障がい者も健常者も一緒に楽しめる花火～

北海道・秋田・東京・愛知・他1か所の花火大会／令和元年7月～12月

オールジャパンで名人花火師が集い、障がい者と共に創り、障がい者も楽しめる花火を企画実施します。障がい者、著名華道家、名人花火師の三者が創作する独創的な花火などを全国五か所で披露し「多様性と調和」の一助になることを目指します。また、花火大会がインバウンド招客のコアの観光資源となるべく、PR動画やホームページを駆使してインバウンド向け予約サイト、SNSなどで招客します。



触ってわかる花火の展示



花火の点図イラスト、点字パンフレット



リボーン・アートフェスティバル

宮城県・牡鹿（おしか）半島、石巻市街地
令和元年8月3日（土）～9月29日（日）

現代アートと音楽、食の3分野のアーティストが集まり、復興の中で「生きる術」を発揮してきた地域住民との共創で織りなす総合芸術祭として、一層の地域発展と国内外来客数の増加を目指します。

《来場者数》のべ442,426人(うち外国人のべ6,194人)



White Deer (Oshika)



Digitized by srujanika@gmail.com



レアンドロ・エルリッヒ「『島の中の小さなお店』プロジェクト ランドリー | Photo Keizo Kioku

瀬戸内国際芸術祭

香川県
平成31年4月26日（金）～令和元年5月26日（日）
令和元年7月19日（金）～8月25日（日）、9月28日（土）～11月4日（月）

地域資源を生かしたアートプロジェクトや「食」に関する取組を通じて、美しい自然と人間が交錯し交響してきた瀬戸内の島々に活力を取り戻し、瀬戸内が地球上のすべての地域の「希望の海」となることを目指します。



草間彌生「赤かばちゃ」2006年
直島・宮浦港緑地 PhotoDaisuke Aochi



レアンドロ・エルリッヒ「『島の中の小さなお店』プロジェクト ランドリー | Photo Keizo Kioku



ワン・ウェンチー(王文志)「小豆島の恋」 Photo Keizo Kikuchi

「日本遺産等を活用した旧軍港都市・横須賀東海岸 『文化財×自然×文化芸術』推進事業」

横須賀市内、猿島など／平成31年4月25日（木）～令和2年3月31日（火）

日本遺産を中心とした文化財の残る旧軍港都市・横須賀東海岸で、文化財や自然に、"夜""光""音"などのコンテンツや音楽やグルメなどのサブカルチャーを融合させた横須賀ならではの取組を行います。



猿島アートナイトの開催



浦賀ドックの産業遺産を活用した
プロジェクトマッピング

「大阪文化芸術フェス」事業

万博記念公園、中之島・大阪城周辺をはじめとした府内各地
令和元年9月中旬～11月中旬

文化を核として大阪の都市魅力を高めるため、大阪府内のホールや公園等で大阪の文化や国内外の文化コンテンツを集中的に実施し、広く発信する事で地域経済の活性化を図りつつ、国際エンターテイメント都市実現を目指します。



Welcome to OSAKA (関西国際空港：大阪の文化芸術で外国人の方をおもてなし)

「未来へつなぐ！とっとり文化遺産魅力創造 発信事業『とっとり博』」

鳥取県内各地域／令和元年6月11日（火）～令和2年3月



鳥取砂丘と麒麟獅子舞

弥生の遺跡など県内の貴重な「文化財」と我が県が誇る民藝などの「次世代の文化財」を合わせ、とっとり文化遺産として魅力を発掘・創造・国内外に発信するとともに、未来へつなぐでいく取組を行います。

日本文化体験「日本のよろい！」（主催・共催型）

東京国立博物館／令和元年7月17日～9月23日

日本の甲冑を皮革・漆等の自然素材などで再現した「甲冑製作技術」、「ハンズオン甲冑」、「甲冑のレプリカ着用体験」を安土桃山時代の本物と併せて展示しました。サポートスタッフの配置や、日英中韓4か国語表記により、訪日観光客にも日本文化を楽しめる企画を実施しました。



総入館者数
1 1 2 , 1 5 0 名

うち外国人来館者数
3 9 , 6 4 1 名

総入館者に占める割合
3 5 . 4 %

《アンケートからの抜粋》

- ヨーロッパの、少なくとも標準的な鎧はもっと地味です。ただ仕事をするためだけに作られていて。日本によろいは本物の芸術といった性質が強いですね。それが両者の違いだと思います。これを着けるのも、芸術だと思いますね！（ドイツ・30代・男性・旅行者）
- 素晴らしいと思いました。さまざまな種類の鎧がどのように組み立てられているのか、どのように異なる板を組み合わせているのかを見ることができて本当に興味深かったです。それに、それぞれの鎧に取り付けられている多様な飾りも。（アメリカ・30代・男性・旅行者）

甲冑と甲冑製作技術の展示



重要美術品／金小札紅糸中白威腹巻／安土桃山時代・16世紀／東京国立博物館蔵

自然素材と、金属、染織などを組み合わせて作られ、使われる技術も多彩。
腰回りを防御する草摺（くさづり）には、革でできた小札（こざね）と呼ばれる小さなカーデのような部品を横に重ねたもの、漆で塗り固めて横の列につなげたもの、絹の組紐によって縦の列に綴り合せたものがあり、甲冑はさまざまな素材や技法によってつくられています。

着用体験実施日数
1日 11回×15日間
(1回約30分)

着用体験者総数
395名
うち外国人体験者数
91名
総体験者数に占める割合
24.93%

DiscoverKABUKI -外国人のための歌舞伎鑑賞教室-(主催・共催型)

日本芸術文化振興会 国立劇場／令和元年6月17日～18日

日本の伝統芸能「歌舞伎」の魅力を解説付きで上演する外国人向け入門公演です。日英中韓西仏の6言語対応による音声ガイドとプログラムを提供しました。初の試みとして外国人向けに歌舞伎の演技や太鼓の演奏を体験できるワークショップも実施しました。在日大使館関係者の招へいも実施しました。



来場者数：3公演 2,460人
(内約7割が外国人)

《訪日外国人のための取組》

- ▶日本語と英語を交えた解説
- ▶中国語・韓国語・スペイン語・フランス語の音声解説
- ▶舞台鑑賞後、プロの指導による
 - ・大太鼓の演奏体験
 - ・歌舞伎の演技の体験
 - ・立役の演技とツケの体験
 - ・女方の演技体験

《アンケートからの抜粋》

- ・役者たちの演技が素晴らしい。歌舞伎がこんなに楽しいとは思ってもみなかつた。とても面白く、機知に富み、優れた演技だ。
- ・歌舞伎の舞台がこれほど引き込まれるものだとは思っていなかつたすべて理解できだし、見ていて楽しかった。最初の説明はとても役に立つたし、公演全体を通して役に立つた。
- ・日本語が母語でない人たちに向けた伝統的な歌舞伎の活動をぜひもっと行ってください。今日はたいへん愉快でした！



「外国人のための歌舞伎ワークショップ」 女方の演技体験

国立劇場 社会人のための歌舞伎鑑賞教室・日本酒体験 (参画型)

日本芸術文化振興会 国立劇場／令和元年7月12日、19日

※国税庁等との連携事業

7月社会人のための歌舞伎鑑賞教室で上演される「棒しばり」がお酒に関した演目であることから、休憩時間に、国税庁及び日本酒造組合中央会との連携の下、日本酒を提供する場を設け、日本の伝統的な食文化の一つである日本酒のPRを行いました。

体験人数：2日間 約1,000人（内1割が外国人）

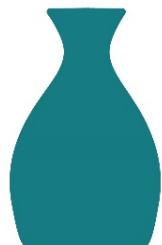
《アンケートからの抜粋》

- ・思いがけず、すばらしい日本酒の世界を知ることができました。こういう企画は大いにやって下さい！！
- ・試飲、粋でした。気持ち良く過ごせました。これからも時々楽しみをお願い致します。



棒しばりの登場人物もほしがる 最高級の大吟醸酒

棒しばりの演目にならみ
休憩時間中2階レストラン前にて
日本酒の提供を行っております。



東京シシマイコレクション2020プレ ～東日本大震災から復活したシシマイ～（参画型）

東京国立博物館本館前庭／令和元年5月11日（土）～12日（日）、10月～11月頃

「獅子舞」は、豊作祈願や大漁祈願など自然に対する祈りの形でもあり、東日本大震災の後には、地域の復興や精神的な救済に大きく貢献。被災地の獅子舞の豊かな表現を、日・英の解説により訪日外国人を含めた多くの人に体験してもらい、あわせて被災地への誘客も図る企画を実施しました。

《観覧・参加者数》

5月11日(土)	1回公演	714人	(うち外国人 約70人)
12日(日)	2回公演	2,038人	(うち外国人約200人)
計 2,752人			(うち外国人約270人)

※外国人は約1割

《アンケートから抜粋》

- ・体験できたのがとても記念になりました。
- ・東北の本格的な太鼓が聞けてよかったです。
- ・参加型ワークショップがよかったです。とてもフレンドリーな感じでよかったです。
- ・生き生きして一生懸命やつていらっしゃる様子がわかって興味深かったです。
- ・神事なのにさわらせていただいてうれしかったです。
- ・説明や体験もあり十分に楽しめました。
- ・地域の文化を守っていてとてもよかったです。

《インタビュー（外国人 3人）》

- ・初めて見ることができ、また、見るだけでなく体験をできたことが楽しかった。
- ・日本に留学に来ているが、このような文化体験の機会はあまりないので貴重だった。
- ・とても楽しかった。素晴らしい。



提供:福田十二神楽保存会



提供:東京文化財研究所／日本芸術文化振興会



和文化・産業連携プロジェクト～日本橋から五大陸へ～ 「日本橋和文化体験見本市2019」（参画型）

和文化・産業連携振興協議会

令和元年9月25日（7月26日にプレイベント）※農林水産省との連携事業

日本の自然が育てたい草・花き・蚕糸・茶を素材とする、畳・いけばな・絹・製茶（煎茶、抹茶）が生み出した日本の文化を産地と関連付け、インバウンド旅行関係者に一度にすべての体験をする機会を設けることで、文化体験観光の促進のみならず、全国の産地特に、い草の産地でもある被災地の熊本への誘客を図る企画。英字パンフレットを用意し、当日英語が可能なスタッフを配置。

《参加者数》

全体 約413人
(内プレイベント約113人)
内外国人 約31人
(内プレイベント約16人)

《アンケートからの抜粋》

- 抹茶、煎茶、着物、畳、全部一度に体験できてよかったです。
- お着物をきっちり着付けしてもらえてよかったです。
- ミニ畳を見るのは初めてで、かわいらしいものを作ることができた。
- お抹茶もお煎茶も、説明が分かりやすかったです。



日本博 in 日本橋（主催・共催型）

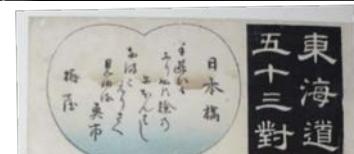
日本橋滝の広場、日本橋三越本店、日本橋高島屋、日本銀行本店、三井本館、日本橋案内所、KITCHEN STUDIO SUIBA、Flatto、日本橋三井タワーアトリウム

令和元年10月25日～11月4日

江戸時代から様々なヒトとモノが集まり、豊かな文化が育まれてきた街、日本橋。その日本橋で「江戸の美」を発信する数々のイベントを開催します。

開会記念式典では、江戸町火消の無形文化を継承する江戸消防記念会による木遣りを実演。歴史ある名建築をたどる「重要文化財めぐり」は、3ヶ国語（日・英・中）に対応し、ワイヤレスガイドを使用し案内します。また、浮世絵をテーマとした「木版画摺り実演」なども行います。

老舗飲食店による「江戸食文化の体験ワークショップ」では、伝統を受け継ぐ料理人自らのレクチャーを英語ガイドから受けることができるなど、日本橋ならではの特別な文化体験をお楽しみいただけます。



「日本博」2020オープニング・セレモニー
記念公演『月雪花（つきゆきはな）にあそぶ－日本の音と声と舞－』

東京国立博物館 本館前庭／令和2年3月14日

「日本博」2020の始まりを宣言する式典の後、歌舞伎・能・文楽・雅楽・琉球芸能・現代の合唱等、多くの舞台芸術が一堂に会し、様々な形で共演し「日本の四季」を感じられるパフォーマンスを披露します。

多くの日本人及び外国人が集まる東京国立博物館本館前に三面の特設舞台を設営、映像技術、現代アートを取り入れるなど、分野を超えた過去最大規模の初めての舞台を企画します。日・英による解説付きで、どなたにも日本の舞台芸術が総合的に体感できる空間を演出します。



ユネスコ無形文化遺産 特別展「体感！日本の伝統芸能
—歌舞伎・文楽・能楽・雅楽・組踊の世界—」

東京国立博物館 表慶館／令和2年3月10日～5月24日

歌舞伎・能楽・文楽・雅楽・組踊などの我が国を代表する伝統芸能を一つの空間の中で総合的に楽しんでいただく、史上初の体験型展覧会。再現舞台や公演で使用されている衣裳・装束、楽器、道具の展示、多言語による解説、大型モニタでの実演映像の上映などにより、実際の舞台を体感していただける空間を創出します。エントランスには国宝「花下遊楽図屏風」の高精細複製を展示し、プロジェクトマッピングにより祝祭感を演出します。

また、子ども・若者や訪日外国人を含め、誰もが気軽に楽しめる企画として、展示室内でワークショップやデモンストレーション、トークを実施。

ユネスコ無形文化遺産指定の5芸能に加え、民俗芸能等についても紹介します。



「暫」三代目歌川国貞（国立劇場蔵）



※体験型ワークショップイメージ

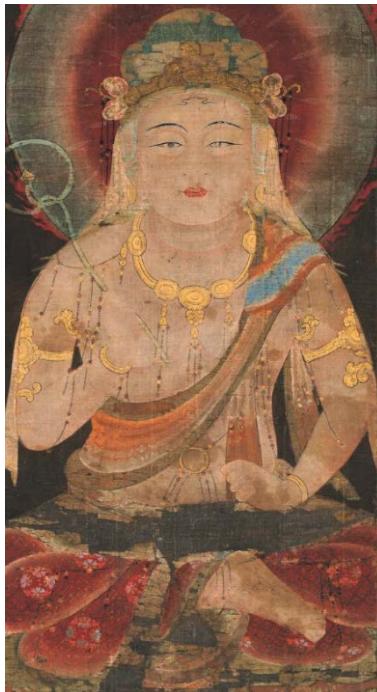


※展示イメージ

特別展「京都の国宝展 —守り伝える日本のたから—」（仮称）

京都市京セラ美術館／令和2年4月下旬～6月下旬予定

古代より育まれてきた日本人の自然への畏敬の念や美意識等を、絵画、彫刻、工芸、書跡、考古資料・歴史資料等の幅広い分野の京都ゆかりの国宝で通覧します。また、文化財の保存活用に必要不可欠な文化財修理、修理材料の確保や修理技術の継承、模写・模造製作を通じた技術の復元等の取り組みを多言語で紹介します。



国宝 絹本着色十二天像のうち
水天 部分
(京都国立博物館所蔵)



太刀（国宝 銘久国）
(文化庁所蔵)

特別展 「和食～日本の自然、人々の知恵～」

国立科学博物館／令和2年3月14日～6月14日

縄文時代から現代、そして未来まで、アイヌや琉球を含む日本の豊かな自然と文化から生まれた「和食」を、標本等の「リアル展示」とインタラクティブメディアアートによる「映像展示」を融合させた体感的な展示を多言語化で展開します。和食に関するアンケート結果などを分析し、現代人の和食に対する考え方を読み解いていく企画です。



ファッションイン ジャパン 1945-2020－流行と社会

国立新美術館／令和2年6月3日～8月24日
※経済産業省との連携事業

1970年代以降、「自然」とのかかわりにおいて、日本人が生み出してきた、独特な装い文化の歴史は世界から高い評価を得ています。本展は、現在の日本のファッションの土台となつた明治期以降の動向をふまえ、ユニークな展開をみせた戦後から現在に至る日本のファッションについて「自然観」「創造性」「革新性」を切り口に多言語で紹介します。ファッションショー等も企画します。



特別展「工藝2020～日本の工藝と自然～」

東京国立博物館 表慶館／令和2年10月～11月予定

※食と工芸の体験型プログラムを試行的に実施（令和元年11月6日東京、令和元年11月21日京都）

日本の工芸は、自然の様々な素材と技法、そして作家の感性によって創り出されたもので、自然との密接な関わりを特質としています。日本人の精神と「心」を反映する特有の自然観に満たされ、そこにある美を生活の道具やそれを原点に表現されるものに創造して発展してきました。本展では自然の素材と適合したわざを有効に活用して、自然観や自然の美を主題とし独自の創作表現としている現代作家を幅広い世代から招へいし、様々な工芸表現の作品を多言語（日・英・中・韓）を用いて紹介します。

今年度関連企画「Kōgei Dining」は、機能美を有する工芸と食文化の親和性を演出する体験型プログラムとして実施します。（協賛：ぐるなび）



室瀬和美 《柏葉蒔絵螺鈿六角合子》



春山文典《キューピック 宙・華》



奥田小由女「海から天空へ」



今泉今右衛門《色絵雪花薄墨墨はじき雪松文蓋付瓶》

企画展「国立公園展」（仮称）

国立科学博物館／令和2年8月～10月予定

※環境省との連携事業

四季折々に変化する日本の美しい自然と共に生きてきた、日本人の文化景観である全国の国立公園を紹介します。

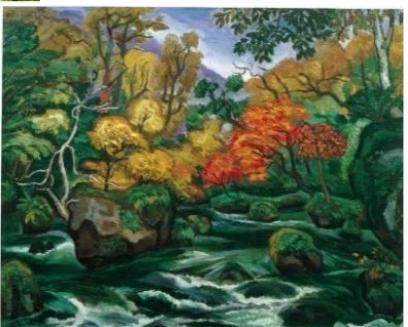
国立科学博物館が所蔵する標本資料や美術館の絵画、映像等により、科学的かつ文化芸術的な側面から国立公園を紹介します。訪日外国人にも分かりやすく多言語（日英中韓）で展示し、環境省が推進する「国立公園満喫プロジェクト」との連携も図りながら、実際に国立公園への誘客を促す展示を企画します。



中部山岳国立公園

中澤弘光「上高地大正池」
(所蔵：小杉放菴記念日光美術館)

十和田八幡平国立公園

大野隆徳「奥入瀬溪流の秋」
(所蔵：小杉放菴記念日光美術館)

古代から令和の時代までつながる文化を巡る 奈良博覧プロジェクト

奈良市：平城宮跡歴史公園、県立美術館、唐招提寺、
明日香村：万葉文化館、大和郡山市：民俗博物館、旧前坊家住宅、
橿原市：橿原考古学研究所附属博物館他、斑鳩町：法隆寺など、
東京都：東京国立博物館／令和元年7月頃～令和2年3月頃

世界遺産平城宮跡を主会場とした「大立山まつり」を中心に据えて、県内外のイベントを結び、通年で県内の文化や自然を周遊・体感できるプログラムを展開し、文化財はもちろん、伝統行事や食文化等も含めた奈良の文化の魅力を国内外に発信し、良質な誘客・周遊を強力に推進します。奈良の地で産まれ、育まれてきた和の精神を体感することができる奈良の自然や歴史、食文化、文化財といった文化資源を活用した外国人観光客数や外国人延べ宿泊客数の更なる増加促進を図ります。



平城宮跡におけるイベント（大立山まつり）

「日本のたてもの－自然素材を伝統技術に活かす知恵」

東京国立博物館 表慶館、国立科学博物館、国立近現代建築資料館
令和2年11月～令和3年2月（予定）

木材・土・石など多様な自然素材を優れた造形物に発展させてきた日本の建築を主題とし、その要素を高い加工技術で凝縮した「建築模型」に焦点を当て、日本の建築を飛鳥時代から現代まで通史的に概観します。

建物の細部や素材の特性を精巧に再現した学術模型を展示するほか、木造建築における技術の解説、建築鑑賞ツアーなどを行い、訪日外国人が日本の建築文化を楽しみながらも正しく理解することを目指します。

また、平成30年にユネスコ無形文化遺産へ提案された、「伝統建築 工匠の技：木造建造物を受け継ぐための伝統技術」に関する解説パネルを設置し、伝承者養成・技能鍛磨・原材料や用具の確保など、近年の取組についても紹介します。



東大寺鐘楼（国宝／鎌倉時代）東京国立博物館所蔵



觀智院客殿（国宝／江戸時代）国所蔵



三井銀行京都支店（大正3年）一般社団法人日本建築学会所蔵



日本橋高島屋（昭和8年）株式会社高島屋所蔵

アイヌ文化魅力発信プロジェクト ～アイヌが歩む。アイヌと歩む。～

民族共生象徴空間（ウポポイ）、国内各地
／令和元年11月頃～令和2年10月頃
※内閣官房アイヌ総合政策室との連携事業

イランカラブテ！

令和元年度は、多くの訪日外国人が集まる主要空港等において、アイヌ文化の魅力を多言語によって戦略的に発信するリレー展示を開催します。

令和2年度は、民族共生象徴空間（ウポポイ）や北海道各地の主要施設において、アイヌ文化を国内外に発信する大規模な事業を計画中です。



MANGA都市TOKYO ニッポンのマンガ・アニメ・ゲーム ・特撮 2020

国立新美術館／令和2年7月～9月予定

日本のマンガ・アニメ・ゲーム・特撮の中から、破壊と再生が繰り返される「東京」という都市をテーマに約90コンテンツを取り上げ展観。『ゴジラ』『AKIRA』『百日紅』などの貴重な原画、関係資料、映像等を美しいメディア芸術でたどる。日・英・仏・中・韓5か国語による展示や、車いす等の思いやりレーンの設置により、誰もが楽しめる企画です。



MANGA ← → TOKYO

Illustration by: Yoh Yoshinari
(c) Crypton Future Media, INC. www.piapro.net / (c) khara /
(c) Naoko Takeuchi/PNP, Toei Animation / (c) Osamu Akimoto,
Atelier Beedama/SHUEISHA / (c) SOTSU, SUNRISE /
(c) TOHO CO., LTD.

沖縄の伝統芸能・ユネスコ無形文化 遺産「組踊」 ～300周年の誇りを世界に～

沖縄県内、国立劇場おきなわ、全国各地
／令和元年10月～令和2年3月予定

琉球王朝時代から様々な文化の影響を受けつつ独自の美学と感性で育まれ発展してきた組踊を始めとする沖縄の芸能文化を次世代に引き継ぎ、時代に即した新たな文化芸術を創造する企画です。

また訪日外国人も楽しめるよう多言語対応で行う公演「Discover KUMIODORI」等を実施します。

[最新の知見を加え、組踊の代表作を当時の演出で再現]



2020東京大会・日本博を契機とした障害者の文化芸術フェスティバル —2020グランドオープニング—（主催・共催型）

滋賀県びわ湖大津プリンスホテル、ボーダレス・アートミュージアム N O - M A
令和2年2月7日～3月31日 ※厚生労働省との連携事業

「日本人と自然」を障害者の視点を通じて国内外に発信する、文化芸術フェスティバルのグランドオープニングイベントになります。障害者の芸術表現、そして障害者が自身の特性とともに生きる様には、日本人が縄文時代から持つ、四季折々の天然の色彩、音の風情を慈しむ心が強く表現されています。

また、本フェスティバルは、厚生労働省及び全国50万人が連携し行い、全国展開します。



アール・ブリュット –日本人と自然– 展
【参考】木村佑介《仏像》



訪日外国人等を対象とした
「表現活動を生み出す豊かな風土体験プログラム」



障害者の優れた舞台芸術 見本市

これから4—障害・表現・共生を考える5日間 (参画型)

文化庁、東京都／令和元年12月4日～8日

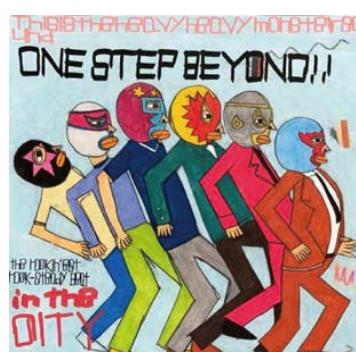
本展は、2016年度の「スポーツ・文化・ワールド・フォーラム」時に開催した「これから」展を契機とする、共生社会や文化の多様性について考えるための展覧会であり、今回で4回目を迎えます。障害のある人の作品だけでなく、様々な美術作品が共存する空間を通じて、表現が持つ「根源的なよろこび」を感じ、併せて、来場者がより良い環境で作品を鑑賞できるような展示の配慮やサポート体制の整備、日本語と英語によるキャプションや解説などを通じて、あらゆる人に対して美術館がひらかれた場所となることを目指します。



過去の展示の様子
(手話通訳付きギャラリートーク)



これから4 ロゴマーク



マスカラ・コントラ・マスカラ
《覆面とロック
(レコジャケシリーズ) 2016-17年》